

日本の医療に対する不満と不安

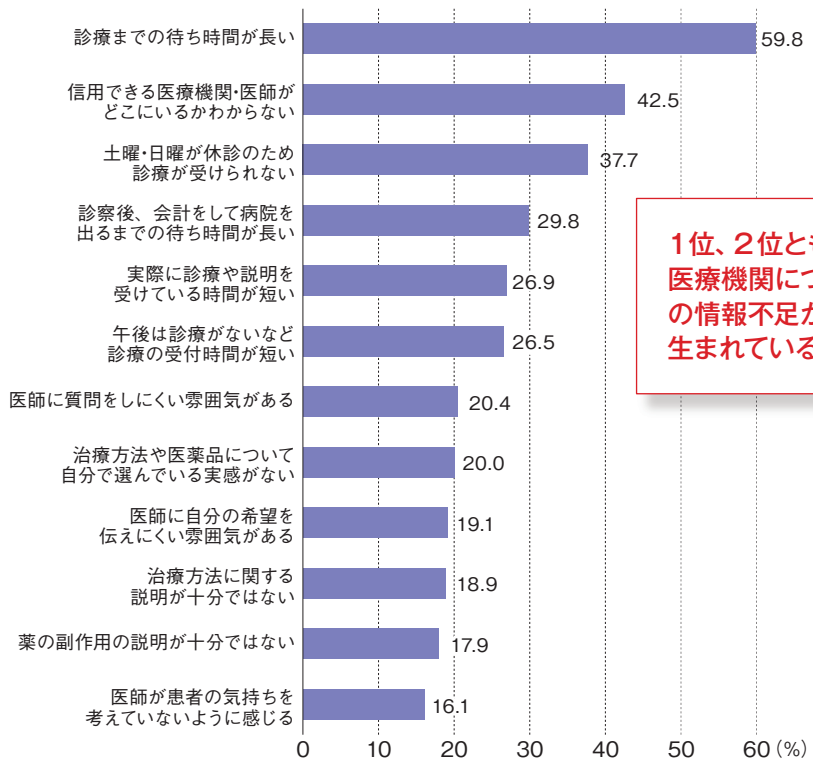
日本の医療について、人々はどう感じているのでしょうか。NRIが実施した調査から、国民の声を探りました。

医療への不満について表したのが右上のグラフです。1位、2位の結果からは、医療に関する情報不足のためか、信用できる受診先がわからない、そのため一部の医療機関に人々が集中して待ち時間が長くなる、といったことがうかがえます。

政府が力を入れるべき医療領域、および医療への不安点について(右下グラフ)は、「国民皆保険制度の存続」が2位に挙がりました。基本的な国の枠組みにもかかわらず、人々が不安を抱き、力を入れるべきと考えている点で注目されます。

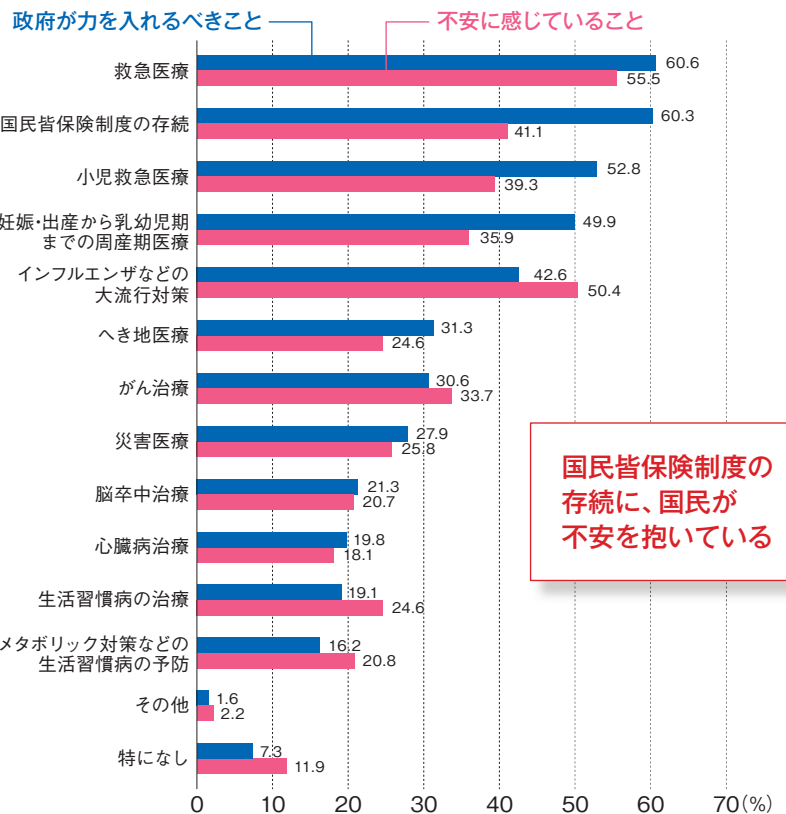
また、医療費の負担意向について聞いたところ「負担(社会保険料や税金)が増えても医療を充実させてほしい」人が42.7%、「医療水準が低下しても負担は増えないようにしてほしい」人が16.4%、「わからない」人が40.9%という結果でした。国は医療費抑制を声高にしていますが、「負担もやむなし」の人が「負担を切り詰めた」人より上回った結果を、見過ごすことはできないでしょう。

医療への不満点 (N=1000、複数回答)



1位、2位とも、医療機関についての情報不足から生まれている

医療の中で政府が力を入れるべきこと・不安に感じていること (N=1000、いずれも複数回答)



国民皆保険制度の存続に、国民が不安を抱いている

調査概要) NRI「自身の医療・健康状態に関するアンケート調査」
 実施時期=2009年1月26日~27日/方法=インターネットアンケート/対象=全国の男女1,000人、20歳以上
 詳細な分析結果=http://www.nri.co.jp/souhatsu/research/2009/pdf/rd200903_01.pdf